



令和6年3月25日

No. 13

発行責任者
校長 有崎 美紀

府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>



【修了式 学校長の話】

先ほど、学年の代表の人に修了証を渡しました。修了式の「修」は、「修める」といって、「学んだことが身に付く」という意味と「行いや態度が良くなる」という意味があります。1年間、みなさんは、中央小の大きな目標である「自ら伸びる」に向かって、山場をつくり自分の力で歩んできました。いくら大人が「あの山に登ろう」と大きな声を出しても、実際に山に登るのはみなさん自身です。疲れて休むことや、歩みが止まってしまうことがあったかもしれませんが、1年生は1年生の山、2年生は2年生の山を登ってきたのは、まぎれもない自分自身です。1年間かけて登った山から見える景色はどうでしょうか。すでに次の学年の山が見えている人もいるかもしれませんね。

さて、校長先生から春休みの宿題を出します。それは「1日のうちの1%を『自ら伸びる』ために使おう」というものです。1日の1%は、およそ15分。毎日15分を「自ら伸びる」ことに使ってください。本を読む、縄跳びをする、勉強でも、何かの練習でもいい。それを毎日続けるのです。「自ら伸びる」とは、自分自身がより良く変化していくこと。自分自身に変化を起こすため、自ら目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する力をつけてほしいと思います。

4月、新しい学級で新しい先生や新しい友達と、春休みに毎日15分続けたこと、自ら伸びようと続けたことを話し合ってみてくださいね。

これまで、見えるところでも見えないところでも、みなさんを支えてくれた先生や友達、地域の方に感謝の思いを伝えて1年を締めくくりましょう。

4月8日、みなさんに元気に会えることを願っています。

【児童代表の言葉】

「一年間を振り返って」

5年 梅富 遥空

ぼくは、1年間を振り返って、5年生の学年目標の中の、考えて行動する「自律」の力と自ら伸びようとする「向上」の力を伸ばすことができました。

まず、野外活動では、班長や生活係として活動しました。班長として、「10分前行動・5分前集合」が守れるように声をかけました。また、野外活動の生活係としては、みんなが自分のことは自分でできるようにするためにサポートをしました。大変なこともありましたが、「自分のことは自分で考えて行動する」という「自律」の力がついてきました。

次に、総合的な学習の時間で防災について学びました。ぼくたちは、防災について学んだことを全学年に伝えるために、はちの子祭りで防災に関するクイズや射的、新聞紙を使ってスリッパを作るワークショップを行いました。分かりやすく伝えようと意識し、「向上」の力をのばすことができました。

4月からは6年生になります。学校行事や委員会活動にも積極的に取り組み、「より良い学校づくり」をしたいと思っています。はちの子のリーダーとして、自ら伸びる姿をみんなに見せていきたいです。

6年生、卒業おめでとう

卒業証書授与式

3月19日（火）に第54回卒業証書授与式が行われ、125名の卒業生が厳粛な雰囲気の中、巣立っていきました。これまで、6年生の子供達は、縦割り活動や委員会活動をはじめとして多くの場面で「あこがれのリーダー」として学校を支えてくれました。これまで学校を支えてくれた6年生、これから学校を支えていく5年生、ともに凛として式に臨む姿から成長を感じることができました。6年生は、これからも中学校で活躍してくれることを期待しています。また、6年生のために懸命に卒業式の準備をしてくれた5年生。今度は5年生が中央小のリーダーとして、学校を支えてくれると期待しています。

6年生のみなさん、卒業おめでとう！6年生みなさんの輝く未来をいつまでも応援しています。



卒業を祝う会

3月1日（金）に「卒業を祝う会」を行いました。今年度も6年生が体育館のステージ前に設置されたひな壇に座り、発表順に入れ替わる各学年の発表を見ました。

この会に向けて、5年生の執行部の子供たちが中心となり、計画、準備を進めてきました。当日は司会として会の進行をしながらきびきびと動く姿に、次のリーダーとしての頼もしさを感じました。1年生から5年生は、6年生への卒業のお祝いと感謝の気持ちを発表で表現することができました。各学年の発表は、それぞれ工夫が凝らしており、6年生は笑顔になったり感動したりしながら、じっと聞き入っていました。最後に6年生も1年生・5年生を前に、小学校の思い出コントや合奏で下級生への気持ちを表現しました。素敵なハーモニーが体育館に響きわたりました。さすが6年生、「あこがれのリーダー」の発表でした。学校中に「ありがとう」の気持ちがあふれる心温まる会となりました。



ありがとう 中央小

いつもはちの子を支えてくださるCS サポーターさんの手伝いをしたい、そして、6年間お世話になった中央小に感謝の気持ちを伝えたいと、卒業を目前にした6年生が奉仕活動として、校舎内外の掃除や昼休憩に劇を交えた紙芝居の読み聞かせをしてくれました。

また、これまで交流をしてきた縦割りクラスの1年生との交流会も開いてくれました。

まだ寒い中、床に膝をついて丁寧に床を磨く姿、下級生たちを楽しませようとする姿から、これまで見えないところで懸命に働き、学校を支えてくれた6年生の成長を感じました。そんな6年生の姿を見て、嬉しくもあり寂しさも感じました。



卒業記念オリジナル給食

6年生が家庭科の学習の中で、各学級ごとに考えた給食1食分の献立が給食で出されました。「まごわやさしい」の食材をすべて使い、栄養のバランスを考え、見た目も彩りがよくなるように、6年生が学級ごとに相談しながら献立を考えました。献立には、食べた人たちがおいしさのあまり素敵な笑顔になりますようにという6年生の思いが込められており、献立に楽しいネーミングも付けられていました。4つの献立の給食はどれもとてもおいしくいただくことができました。はちの子たちにも大好評でした。



6-1

うまいんじゃけえ 給食



6-2

広島大好き 山海定食



6-3

ゴロシャキカレー



6-4

hachinoko happy 給食

家庭・地域と共にある学校

第3回学校運営協議会

2月28日（水）、第3回学校運営協議会を開催しました。今回は、授業参観をしていただいた後、学校より学校評価の最終評価についてご説明させていただき、委員の皆様からご意見をいただきました。とても温かく学校や子供達のことを見守っていただいていることに感謝しております。

いただいたご意見を来年度の学校経営に反映させ、更に子どもたちが「自ら伸びる」教育活動を展開していきます。今後も地域・家庭・学校が連携しながら子供達の成長を支えていけるようコミュニティ・スクールの取組にご協力をお願いします。

学校評価につきましては、HPに掲載しますので、ご覧ください。

感謝の会 ～サポーターさん、ありがとう～

3月5日（火）に、感謝の会を開きました。今年度も、学習サポーター、図書サポーター、クラブサポーターなど、多くの保護者、地域の方がサポーターとして子供達の成長を支えてくださいました。この日は、日頃からお世話になっているサポーターさんに、子供達からのお礼のお手紙をお渡しし、子供達と一緒に給食を召し上がっていただきました。子供達に声をかけてくださったり、質問に答えてくださったり、とても楽しい時間を過ごすことができました。お越しいただいたサポーターさんからも「とても楽しかったです。」「子供達から元気をもらいました。」という声をいただきました。また、後日、感謝の会におこしいただいたサポーターさんから「感謝の会の後、道で出会った子が声をかけてくれて、嬉しかったです。」という声もいただきました。地域の中で、子供達がたくさんの大人に見守られ、育てていただいていることに感謝しています。これからもよろしくお願いします。



「じまんの俳句」第9回目の代表作品



今年度最後の自由投句に取り組みました。応募作品数は、なんと2137句。そして、参加した人数は705人。応募作品数も人数も過去最高となりました。自分が経験したことや何気ない日常の一瞬を切り取って詠んだ作品がぐんと増えました。子供達の生活を見つめる目が育ってきたことが嬉しいです。来年度もたくさんの素敵な作品が集まることを期待しています。

かじかんで シュートがまさかの ナイスパス

六年 藤井 颯太

この俳句からは、狙ってシュートをしたはずなのに、ナイスパスになってしまったくらい手がかじかんで寒かったということが伝わってきます。また、「まさかの」という言葉が生きっていて、この作品をより引き立てています。ハプニングを描写することで、寒さをおもしろく表現しているのが見事です。

参観日 行く前言われた 「見てるから」

三年 高野 颯真

参観日。「見てるから」は誰が言った言葉かすぐにわかりますね。出かける前に「見てるから」と釘をさされるように家の人から言われた詠み手のドキドキした気持ちや変な緊張まで伝わってきます。そして、誰もが「あるある」「わかる」と共感できる作品になりました。

ラーメンに うかぶネギが ハートがた

一年 松崎 桜

熱々のラーメンを食べようとしたとき、ハートの形に見えた驚きを俳句にしています。日本人は昔から、湯呑の中に茶柱が立っていたら何かいいことがあるのではないかと、何気ない生活の中から喜びを見出していたものです。同じようにハート形のネギを見つけて「ラッキー。」なんて喜んだのでしょうか。